

◆二十八番（高木真理議員） 民主党・無所属の会の高木真理です。第一号議案「平成二十四年度埼玉県一般会計予算」について、会派を代表し、賛成の立場から討論させていただきます。

来年度については、厳しい経済環境の中、前年度比〇・七パーセント減の規模の予算編成となりましたが、エコタウン、ウーマノミクス、健康長寿の三分野に重点配分がなされ、めり張りのある予算となっていることを評価したいと思います。限られた財源の中で、苦しくとも未来への種をまく、時代に先駆けた取組を埼玉県から発信するという意気込みは重要な視点です。

そして、昨年の一・一以降、対策の見直しと強化が必要になっている防災の分野において、緊急輸送路の機能確保対策をはじめ、多くの施策を講じる予算となっており、今、正に必要な対応と言えます。また、海外にチャレンジする若者の育成や海外進出を検討する企業の支援を積極的に行っていく施策にも期待できます。

さらに、ドクターヘリ二十四時間体制の再整備や、朝まで小児救急電話相談の実施など、医療の分野でも新たに県民の安心に応えています。

また、災害廃棄物の受入れ支援も、今大震災からの復興に向け必要な事業への取組でありますし、二十四時間介護看護サービスの普及促進や、軽度・中等度難聴児補聴器購入等助成事業が新規導入されることも評価します。

農業分野においても、時代に対応すべく新たな担い手や経営体への育成、支援などに取り組む予算となっており、効果に期待をするところです。

そして、こうした前向きな政策展開の中で、職員数の削減を来年度にも行うなど、行財政改革の取組も行われており、この点も評価したいと思います。

しかし一方、全体の財政を見渡した際に、債務残高が毎年増え続けている点が懸念されます。県独自の債務については減少の努力がなされているものの、臨時財政対策債の増加については、国との間の構造的な問題による部分が大きいとはいえ、注意深い対応が必要と考えます。

また、公共施設の在り方については、今後大量の更新期を迎えて多額の費用が必要となることから、改めて機能を見直し、本当に必要な要素について効率的な運営を目指していただきたいと思います。加えて、公立小中学校事務職員の人事制度が、個々の能力を引き出すには見直しがされぬまま放置され、改革が緒についたばかりであることにも見られるように、まだまだ大きな行政体としての埼玉県に改革すべき点が多く残されていることも事実です。来年度予算を執行していく中でも、これまでの改革の視野から外れてしまっていた点がないか厳しく意識し、不断の努力をもって今後に向けた改革、改善を発見していただきたいと思います。

なお、さいたま新都心への医療拠点整備に関しては、これまで都内への依存が高く不安定であった総合周産期医療の分野が強化される内容であり、今後の本県の全県長期的な医療の在り方にとって価値ある判断と評価します。しかし一方で、現在、重度の障害を抱えて現センターに通われている皆さんが命の心配をしておられ、対応が求められています。知事より、「何らかの機能を残す」、「個々の事例を伺う中で検討する」といった趣旨の発言がありましたので、しっかりとしたお答えをお願いしたいと思います。

以上をもちまして、第一号議案に対する賛成討論といたします。(拍手起こる)